

タイ近現代史

1958～63年	サリット軍事政権
1963～73年	タノーム軍事政権
1973年10月	憲法制定を求めバンコクで40万人デモ
75年	議会制民主主義に。学生・労働運動が高まるなか、左翼政党が37議席取る
76年	軍部によるクーデター。国王が極右の最高裁判事ターニンを首相に任命 民主主義は続かず、左派リーダーの多くが共産ゲリラに参加
77年	軍部によるクーデター、クリアンサクが首相に。ターニンは枢密院議員に
80年	やはり軍人プレムが首相に。左派を恐れ「半分の民主主義」
88年	軍出身だが議員になっていたチャチャイが首相になり、軍政に一応の終止符。 プレムは枢密院に
91年	スチンダー陸軍司令官がクーデターを起こし、選挙を経ず首相になろうとする
92年	退陣要求デモ隊と軍が衝突し、数百人の死者が出る。国王が双方を説得、 いわゆる「神話」ができる
97年	議会制民主主義を安定させるために憲法改正。有力な政党が多くの議席を 取れるような小選挙区を増やす
01年	新憲法下での初選挙で、タクシンのタイ愛国党が、貧困層や地方を救済・優 遇する公約を掲げ、一党で過半数近くの議席を占める歴史的な大勝を果たす
2006年2月	タクシン派と反タクシン派双方の大規模な集会が開催され、対立が激化
2006年4月	野党が選挙をボイコット、憲法裁判所は選挙を無効とする
2006年9月	選挙のやり直しが検討されるなか、ソンティ陸軍司令官を中心とする軍部 によるクーデターが発生し、タクシン政権は終焉を迎える
2006年10月	スラユット枢密院顧問を首相に暫定政権が発足
2007年5月	司法当局はタイ愛国党の選挙違反疑惑に解党と党幹部の5年間の政治活動 禁止を決定。愛国党の主流派は、それまで議席がなかった国民の力党に移 籍し、サマック元バンコク都知事を党首に
2007年10月	下院議員選挙が行われ、タイ愛国党の流れを汲む国民の力党は、480議席 中、233を獲得し、第一党となる
2008年2月	サマック政権が発足したが、反タクシン派の民主化市民連合(PAD=黄シャ ツグループ)の反政府運動が高まる
2008年9月	サマック首相が報酬を得てテレビ出演していたことを、憲法裁判所が違憲とし、 同首相は失職、ソムチャイ副首相が新首相に選出される
2008年11月	黄シャツグループ数千人がソムチャイ首相辞任を求めてバンコク新国際空港 に座り込み、空港は10日間閉鎖
2008年12月	憲法裁判所は選挙違反を理由に国民の力党を解党処分。民主党に流れる 国民の力党議員もいて、第二党だった民主党のアピシット党首が首相に
2009年3月	アピシット政権(黄シャツグループ)に対し、タクシン派の反独裁民主戦線(U DD、赤シャツグループ)が反政府デモ
2009年4月	パタヤで予定されていたASEAN首脳会談へ赤シャツデモ隊が乱入し、会議 は延期。政府はバンコクとその周辺に非常事態宣言を出す
2010年2月	最高裁判所はタクシンもと首相の国内資産を没収する判決を下す
2010年3月12日	赤シャツグループが国会の即時解散を求め、バンコクで大規模な反政府抗議 集会を開く。
2010年4月10日	デモ隊と治安部隊が衝突し、多数の死傷者が出る
2010年5月19日	治安部隊が包囲網を狭めるなか、赤シャツグループ幹部がデモ集会の終結を 宣言。しかし、一部のデモ参加者が放火や略奪を犯す。3月以降、デモに関連 する死亡者数は、政府側の発表で85人
2010年5月20日	非常事態令違反でUDD幹部65人に逮捕状